

授業概要

歴史は、暗記する分野ではなく、根拠となる史資料を元に、時には史資料批判も交えながら、出来事やその理由・背景について論理的に考察する分野です。また現在、世界情勢から身近なことに至るまで、インターネットを中心に様々な情報が氾濫している状況にあります。本授業では、このような史資料の取り扱いやそれに基づく成果を学ぶことを通して、情報の適切な取捨選択ができるようになることを目指します。特に、古代史から中世前期を中心とした日本前近代史の流れについて講義します。

毎回、授業の感想や疑問をリアクションペーパーに書いて提出していただきます。その内容によっては、次回以降の授業内で教員からのコメントを行います。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	大化改新と「郡評論争」
第 3 回	白村江の戦いと律令導入
第 4 回	平城京の時代
第 5 回	女帝の時代
第 6 回	桓武天皇と長岡・平安遷都
第 7 回	女帝の消滅と幼帝の出現
第 8 回	藤原道長と摂関政治
第 9 回	天皇における「二面性」
第 10 回	院の時代
第 11 回	源平合戦
第 12 回	鎌倉幕府の成立と展開
第 13 回	鎌倉幕府倒幕と南北朝
第 14 回	室町幕府と応仁の乱
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポート

到達目標

- ・一般教養レベルから研究の最前線レベルまで、幅広く日本前近代史研究の現状を知ることができる。
- ・史資料批判を通じた情報の取捨選択という方法を学び、実践できる。

履修上の注意

- ・遅刻・私語などは厳禁。高校生などではない、大学生・成人としての自覚を持ち、常識的に取り組むこと。
- ・本授業以外の日本前近代史関係の授業を、本年度または次年度以降受講するのであれば、その前提として本授業を受講してほしい。

予習・復習

- ・【予習】事前に、高校の日本史 B レベルの情報は高校時の教科書などで把握しておくこと。また、毎回事前に授業レジュメを配布するので、きちんと読んでおくこと。
- ・【復習】授業後、配布レジュメを読み直し、ノートを整理しておくこと。

評価方法

学期末に実施するレポートと、毎回授業時のコメントペーパーで評価する。
レポート(70%)、授業態度(コメントペーパー含む)(30%)

テキスト

教科書は指定しない。そのほか、関係する参考文献などを授業中に適宜紹介する。

授業概要

本講義は、近代日本が経験した主要な戦争を取り上げ、それらを取り巻く国際関係や国内状況などを検討していくことにより、戦争の発生要因や歴史的意義、あるいは戦争に対する指導者および国民の意識などを明らかにしていきたい。歴史を専門としない学生にもわかりやすいように、できるだけ具体的な事例を交えながら、戦争を通して日本近代史の特質を理解してもらえるように講義する。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容への理解を深めていくこととする。

授業計画

第 1 回	授業の進め方の説明
第 2 回	日清戦争① 東アジア情勢
第 3 回	日清戦争② 日本の対外姿勢
第 4 回	日清戦争③ 国民の日清戦争観
第 5 回	日露戦争① 対露関係と日英同盟
第 6 回	日露戦争② 日露戦争の意義
第 7 回	日露戦争③ 戦後日本の転換
第 8 回	第一次世界大戦① 参戦目的
第 9 回	第一次世界大戦② 総力戦と国家改造論
第 10 回	第一次世界大戦③ パリ講和会議と日本
第 11 回	満州事変と日中戦争① 事変の背景と世界最終戦論
第 12 回	満州事変と日中戦争② 軍の台頭
第 13 回	満州事変と日中戦争③ 中国への侵攻
第 14 回	太平洋戦争① 南進と日本包囲網の形成
第 15 回	太平洋戦争② 開戦へ
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・近代日本を取り巻く国際環境と国内の状況を理解することができる。
- ・日本の近代史の流れを把握することができる。
- ・戦争の歴史から、教訓を学び取ることができる。

履修上の注意

歴史に興味のある学生を対象としていることを特に強調しておきたい。

予習・復習

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、テキストやノートの読み返しなどの復習を心がけること。

評価方法

学期末試験〔論述形式〕70%と小テスト 30%の合計点で成績評価を行う。

テキスト

- ・教科書名：それでも、日本人は「戦争」を選んだ
- ・著者名：加藤陽子
- ・出版社名：新潮文庫
- ・出版年 (ISBN)：2016 年 (978-4-10-120496-3)